

中学校区におけるめざす子ども像
◀鳳校区のめざす子ども像>: 思いやりをもち、自分も他の人も大切にし、認め合える人

令和7年度 学校教育目標「自ら学び 心豊かにともに育つ」
学校重点目標「認め合い 助け合い 学び合う」 キーワード「対話 あいさつ なかま」

<p>確かな学びの現状 本校では、令和2年度から生活科・総合的な学習の時間を研究の中心に据え、社会的実践力の向上に重点を置いて問題解決型の授業を意識した学習を進めてきた。昨年度は、子どもとのあそびづくりを大切にしつつ、よりよく解決に向かうとする姿勢を育てるため、子どもと子どもの対話を増やす「学び合いタイム」を取り入れた授業づくりを行ってきた。みんなで学ぶことが楽しいと思える授業づくり、集団づくりをめざしている。現状としては、みんなが学ぶ楽しさを感じている児童が多いが、話す・聞か力は全国平均に比べて低い数値となっている。そこでコミュニケーション・ラーニングを実施したり、普段の授業から話し合う時間を積極的に取り入れながら学習を進めて学力向上をめざしている。また、カリキュラムづくりにも力を入れ、生活・総合を軸にして他教科との教科横断を考えた計画づくりをしたり、児童の思いを実現できるように計画をしたりすることで、子どもたちの満足感にもつながり、生活・総合の時間が好きと感じている児童が割となっている。</p>	<p>豊かな心の現状 指導を継続し、あいさつが習慣づいている児童が増えた。児童アンケートの「自分からすすんで挨拶をしている」の項目では肯定的な回答が86%、保護者アンケートの「子どもはすすんであいさつをしている」の項目でも肯定的な回答が78%であった。加えて、地域の方からも「あいさつをよくしている」という評価をいただくことができた。昨年度、「ありがとうなどの挨拶を増やすこと」に取り組み始めたため、今年度も継続してあいさつの種類が増えるよう取り組んでいく。あいさつの種類を増やすことで、相手を認め、尊重する心を育てたい。ルールやきまりについては、児童のアンケートの結果は廊下歩行で83%、きまりを守るで91%と肯定的な意見が多いが、廊下を走っていきがをるなど、実態には課題がある。ルールやきまりを守る大切さに気付ける指導を継続する必要がある。</p> <p>健やかな体の現状 本校は運動場が狭く、休み時間に体を動かす機会が少ない。また、学校の体育の授業以外で、運動をする機会があまりない児童も多い。そのため例年スポーツテストの結果は、堺市平均を下回る項目が多い。その中でも反復横跳びは全学年が堺市平均を下回っており、2学年以下下回っている学年もある。そのため敏捷性を中心に、体力の向上を養う必要がある。</p>
---	--

大項目	中項目	具体的取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のもの)	評価方法	評価時期	進捗確認 (2学期中)	達成状況(年度末)		
							自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	問題解決学習による考える力の育成	●子どもと子どもの対話を増やす授業づくりに取り組む。 生活・総合を軸にして、各教科で対話力を高めるカリキュラムマネジメントを推進する。	●校内授業研究、校内研修会での討議 ・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「授業で、自分の思いや考えを伝えていく。」 「先生や友だちの話をしっかり聞いていく。」 「生活・総合の勉強が好きだ。」	・協議 ・児童アンケート	年度末	・1学期に作成した低・中・高の対話でめざす子ども像「に近づいたために、各学年で計画しながら話し合う機会を授業中に多く取り入れることができた。」 ・各教科の年間指導計画を参考にしながら総合と各教科を横断するカリキュラムづくりを行うことができた。	○ ○ ○	・研究授業を6回行った。夏季研修では、対話の取り組みや子どもの様子について振り返り研修を行うことができた。 ○ ・児童アンケートでは、全項目8割以上を達成することができた。 ・「先生や友だちの話をしっかり聞いている。」の項目では9割に達しているが、実際の授業では、最後まで集中して聞いたり、意図を捉えながら聞いたりすることが難しい児童もいる。 ・主に国語科「話す・聞く」単元と生活・総合の教科横断を意識したカリキュラムをつくり、実践することができた。	○ ○ ○
	ICTの活用を推進する	★授業において、児童用パソコンを活用する。	●学習で児童がパソコンを週2回以上活用する。 児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「学校で自分用のタブレット(パソコン)を使って学習するのは楽しい。」	・児童アンケート	年度末	●中学年は総合や図工の振り返りなどを中心に、週2回以上の活用ができていく。 ●高学年は総合や専科の授業を中心に各教科で週2以上の活用ができていく。	○ ○	・児童アンケート「タブレットを使うことが楽しい」の肯定的意見は90%を上回っており、2学期は、1学期よりも6.2%増えている。 ○ ・週に2回以上活用している」の肯定的意見は3.7%増えているが、否定的意見も12%増えている。中学年・高学年は活用できている児童は多いが、低学年は週に2回の活用が難しい現状がある。	○ ○
基礎学力	対話力の育成	●コミュニケーション・ラーニングを実施する。	●児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「コミュニケーション・ラーニングで話し合い、聞いたりすることに楽しく取り組んでいる。」	・児童アンケート	年度末	・学期に1本以上の学年もコミュニケーション・ラーニングに取り組むことができた。	○	・児童アンケートでは、1学期87.2%、2学期85.1%で目標は達成している。 ・つけたいかに合わせてトレーニングを行った。教員の研修で行ったトレーニングを共有し、使えるトレーニングの種類を増やしている。グループワークで話し合うことに対する抵抗感が少なくなってきたように感じるので、来年度以降も継続して行っていきたい。	○
	互いを認め合い、助け合う仲間づくり	●あいさつができるよう、また「ありがとう」などのあいさつの種類が増えるような取り組みを推進する。 学校いじめ防止基本方針や人権教育計画をもとに互いを認め合う集団作りに取り組む。 ●人権の日を通してのつながりの充実	●児童アンケートの「あいさつ」に係る項目で肯定的回答が90%を上回る。 ●児童アンケートの下記項目で肯定的回答が90%を上回る。 「人が困っているときは進んで助けたい。」 ●児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「ふわふわ言葉を意識して使っている。」	・児童アンケート	年度末	・あいさつの取り組みを通して、自分からあいさつができる児童が増えているように思う。また、教員に対して「おはよう」「さようなら」とあいさつをする児童が増えている実態がある。しかし、子どもたちどうしでのあいさつや「ありがとう」などの感謝の言葉は、まだまだ自分からできる児童は少ない。「おはよう」「さようなら」以外の挨拶ができるような取り組みを考えていく必要がある。 ○ ・人権の日では、その月のテーマごとに学習を行い、人権教育の理解を深めるようにした。人権の日週間にそれぞれの学習を行うことで、子どもたちの人権意識を高めたのではないかと、児童アンケート「ふわふわ言葉を意識して使っている」が1学期86%、2学期85%となった。ふわふわ言葉の取り組みを学期に一回行うことで、意識づけがき行動につながった。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
豊かな心・健やかな体	運動に親しませるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	●体育集会「なわとび検定」を通して、体育授業時・休み時間・放課後・休日等に児童自らが「運動しよう!!」と意欲につなげる。	●休み時間のなわとびタイムの参加状況 ・児童アンケートの下記項目で肯定的回答が80%を上回る。 「休み時間や放課後に、積極的に運動している。」	・児童観察 ・児童アンケート	随時 年度末	・朝の縄跳びタイムの参加率は昨年度よりも高い。開始を10分遅らせたこと、教室に音楽が聞こえることもよかつたのかも知らない。 ○ ・低学年・中学年の児童は積極的に朝の縄跳びタイムに参加している児童が多い。休み時間も自主的に縄跳びの練習をしている児童がいる。 ○ ・高学年は、体育の初めに帯で時間をとったり体育大会の種目にリズム縄跳びを取り入れたりとすることで、体育の授業時間から休み時間などでの積極的な運動習慣へつなげる取り組みを行っている。 ・ふたばでは、合科の時間にリズム縄跳びを取り入れた。	○ ○	・児童の観察から、昨年度と比較して縄跳びへの意欲や技能が向上している様子が見られた。一方で、児童アンケートの結果は、積極的に運動を楽しむ児童の割合が77.4%であり、さらなる増加の余地があると考えている。 ○ ・体力向上の取組として、今後も継続して「なわとび検定」に取り組んでいきたい。	○ ○
	個に応じた支援体制づくり	●子ども支援委員会が支援体制・支援方法を検討、工夫する。 ●学校環境のUD化	●支援体制・支援方法を計画通りに進めている。 ●学習環境の整備を行う	・自己診断 ・実績報告	年度末 年度末	・子ども支援委員会を定期的に開催することで、計画通りに進んでいる。また、相談までのアプローチやフィードバックの方法を見直し実践している。 ○ ・学年ごとや学校全体で統一されたUD化により、子どもたちにとってよりわかりやすい環境が整った。	○ ○	・特別支援教育コーディネーターを中心に、子ども支援委員会が個に応じた支援体制や支援方法を共有・検討することができた。フィードバックをしっかりとすることでより強く共有化が図れた。 ○ ○ ○	○ ○ ○

校長より(年度末)
全教職員で「対話 あいさつ なかま」をキーワードに、自ら学び、心豊かにともに育つ児童の育成に取り組んできた。確かな学びでは、「対話」に重点を置きながら、これまで生活科・総合的な学習の時間で培ってきた力を国語科・算数科等の教科との関連を強めることでさらに高めることに取り組んできた。また、児童が主体的・対話的な深い学びができるような授業づくりについて対話を中心に据えて取り組んできた。今後、適切な場面・用途に応じてICTとアナログ媒体をバランスよく効果的に活用しながら、個別最適な学び、児童自らが学びを進めていく「学びのコンパス」の実現に向けて取り組んでいきたい。R-POCAサイクルを効果的に機能させながら、児童が主体的に学びをつくり「知・徳・体」をバランスよく育てることができるよう指導していきたいと考えている。鳳小学校のすべての子どもにとって居場所と出番のある学校となるよう取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
授業を参観して、「先生が教える—児童が聞く」という昔ながらの形ではなく、グループで話し合ったり、発表したりして、児童が主体的に取り組んでいる姿がたくさん見られた。授業中の児童のいきいきと活動する姿がたくさん見られた。また、学校内の掲示物など児童が考え主体的に取り組んでいる様子も見られた。ICTの活用について、児童が使い慣れていると感じる。これから益々必要になるスキルなので、ノートに書く指導とのバランスを考えて、工夫して使ってほしい。継続したあいさつの取り組みで、あいさつする児童が増えている。登下校の安全指導も引き続き指導してほしい。児童が楽しみながら運動習慣が身につくよう、今後も取り組みを進めてほしい。